



写真：2月8日に開催の「世界湿地の日イベント・歌オスノーシューハイク」より

B2

ニュースレター

2015/3/28

～春のオススメイベント～

ヘネシーハンモック試乗体験イベント(4月)

歌才湿原 大切さ共有

【歌才】2月8日(日)に歌才地区で世界湿地の日を記念するイベント「歌オオノコの巨木をたずねるスノーシューハイク」を開催した。本イベントには、町内外からの一般参加者・関係者併せて13名が参加した。あいにくの天候だったが、目的地であるオノコの巨木にたどり着くと、参加者たちは安堵の表情を浮かべていた。また、ハイク後の昼食会場となったタンポポハウスでは、美しく彩られた手作りのサンドイッチやケーキなどを頬張り、くつろいだ時間を過ごすことができた。

さて、イベントタイトルである「世界湿地の日」であるが、これは1971年2月2日にイランのラムサルで「特に水鳥の生息地として国際的に大切な湿地に関する条約」であるラムサル条約が締結されたことを記念し、1996年に毎年2月2日を「世界湿地の日 World Wetlands Day」とすることが定められたことに始まる。以後、世界各地で湿地・水の恩恵や価値に目を向け、湿地の大切さをPRするイベントが毎年行われている。本町には、小さいながらも北海道で最も古い湿原のひとつとされる歌才湿原があり、9,000年前に堆積が始まったといわれる湿原の変化と共に地域の歴史を見守ってきたわけであるが、温暖化防止や生物多様性に重要な役割を果たす湿原について、湿原で暮らす？タンポポハウスさんと参加者と共に、その大切さについて共有する貴重な時間となった。(編集長)

毎年7月初旬頃、エゾカンゾウが咲き誇る歌才湿原



登山ガイド～辻野治子さん～

「Player of the Season3」

今年、2月のブナ里みてあるき「歌オスノーシューハイク」をはじめトレッキングイベントで活躍中の登山ガイド・辻野治子さん

ページ 2

天然岩海苔「寒のり」～田中鮮魚店～

春になり採集時期は終わりになるが、これからの行楽シーズンに寒のりがお弁当の味わいを引き立てる

ページ 3

黒松内今昔物語 ～黒松内山道こぼれ話～

一籠に乗る人担ぐ人、馬に乗る人歩く人ー

文：北村 英芳

ページ 3

BEECH BOYS ～ブナ里少年期紹介～



「作開小学校で学んだ黒松内の総合学習が、現在の仕事に役立っている」と語ってくれた、作開地区出身の福田雅樹さんに少年時代の思い出を聞いた。

赤井川体験農園 始動！

2015年の体験農園では、12種類の中玉トマト・ミニトマトに加え、昨年、大好評だった「生でもおいしい」ウルTRASWEETコーンのホワイトショコラを栽培します。昨年40株栽培した調理用トマト「シシリアンルー」がトマトソースやスープ用などで好評だったため、今年は60株増やし、100株栽培になる予定です！また、昨年に引き続きオレンジ色と赤色のしましま模様がかわいいイギリス原産の「レッドゼブラ」や、同じしましま模様のミニトマト（品種名は、グリーングレープ、スペクルドロマン、タイガーライク、スカビータ、キャンディーチェリー、イエローストライプなど）を揃えています。美味しいだけでなく、目で見て楽しめる多品種のミニトマトを栽培しますので、是非とも赤井川体験農園まで足を運んで、食べに来て下さい。トマトは8月上旬から、トウモロコシ（ゆできびもあります）は8月後半からのブナマルシェで販売もしています！本年も体験農園同様、ブナマルシェにも是非とも足を運んで下さい！（山口）



おすすめ本の紹介



「熊のことは、熊に訊け」
 ～ヒトが変えた現代のクマ～
 例年になく雪解けも進み、山菜採り、溪流釣りなど春先に山に入る機会があるだろう。そこで、あまりお会いしたくない自然界のご友人であるクマに関する著書をご紹介したい。本書は、純粋に熊の生態を知るには申し分ない本であり、ヒグマに遭遇した際の対処法なども知っておくと便利である。しかし、「ヒグマ」といっても様々な性質のクマがいること、また、それに応じた対処法が違うということが解説されていることに触れておきたい。

著者プロフィール
 岩井基樹(いわい もとき)

東京都出身。1963年生まれ。宇宙物理学を志し北大で数学を学ぶが、ユーコン川を旅したことがきっかけでクマの生態学に転身する。アラスカでは人里離れた森の生活を実践し、その経験から育んだリスクマネジメント術がヒグマ対応の基盤となっている。現在、北大雪山塊に拠点を構え、ヒトとヒグマの軋轢最前線で立ち回り北海道でのフィードバックに取り組む。ヘアドッグの育成にもトライを開始。熊塾・塾生代表。(同書プロフィールより抜粋)
 ソフトカバー 368 ページ 2010/6 発行 出版社:つり人社 本体価格 2,052 円
 ★マンガヴェールにて貸出



スノーシューハイイクでガイドングを行う治子さん(右端)

Player of the season3 登山ガイド・辻野治子さん

今年2月の世界湿地の日イベントでスノーシューハイイクのガイドを担当した辻野治子氏をシーズン3のベストプレイヤーに選出いたしました！一言でガイドといっても種類は様々、バスツアーガイド、歴史ガイド、自然ガイド、美術館・博物館ガイド、街歩きガイド、工場見学ガイドなどなど。それぞれのコンテンツに合わせた解説や道案内をしてくれるエキスパートたちと非日常を体感することで、私たちの好奇心はより一層高まるのだ。さて、治子さんが生業とする山岳ガイドだが、夏山・冬山登山をはじめ、ロッククライミング、トレッキングなど、さまざまな目的をもった登山客を案内し、安全に山を楽しむために必要な技術を教えるなどのサポートをおこなうガイドのことであり、他のガイド業務と比較しても安全の確保、行程管理において特質したガイド業務ということが言える。そう、山ガールと気軽に呼べないタフな仕事なのである。(編集長)

黒松内の山といえば、、、黒松内岳でしょ！

～山に登れば気分爽快～ 文 ノースランド 辻野健治

こんにちは～ ブナの森登山ガイド 辻野健治です。

雪が溶けて、山歩きがはたくなりましたね～ 黒松内の山と言ったら・・・黒松内岳でしょ！！と言うことで、今回は、黒松内岳を紹介してみたいと思います。

黒松内岳に登るには、国道5号線を長万部方面に向かい、道々狩場駐車場から西の沢林道を7km程入ります。登山口の駐車スペースには車が5～6台しか停められず、狭い駐車場です。また、登山道の各合目には、看板が設置されていて、登り始めて3合目まではトドマツ植林地で急登ですが、歩き易いよう自然石等が配置してあります。4合目からは、ブナの木がすごく多い森で、春の新緑、秋の黄葉と季節ごとに葉の色が変わります。5～6合目は、背の高いチシマザサが密生するエリアで、春はタケノコが取り放題?! 7合目からは、この山のハイライトとなる通称「馬の背」、この付近では北限域になるかもしれない? フギレオオバキスミレをはじめ8種類以上の高山植物を観察することができます。そして、お楽しみは9合目ロープ場、総延長60m程あるロープ場を越えれば頂上です。頂上では、可愛い頂上標識がお出迎えています。コースタイムは登り2時間程で、下りは1時間程です。

。。とコース状況は、こんな感じですが、3合目の石積み、9合目のロープ、頂上や各号目の看板など黒松内岳を守り楽しむ「黒松内ぎんよう草の会」が整備し、利用しやすい登山道を目指して登山道の維持管理活動を行っています。3合目付近にあった木造階段は壊れたり段差が高くなったため、自然石を使い高低差を是正したり、9合目のロープ場では、土木工事用のロックアンカーを埋めて固定したり、頂上や各合目の看板は会員が手づくりしたものを設置したりしています。また8合目馬の背付近の刈り払い作業では、高山植物が多いため、花を刈らないよう気をつけながら手刈りをしています。このような小さな活動を通じ、多くの方々楽しく、安全に登山が出来るよう地元有志が縁の下の力持ちとなっています。

皆さんも我々と一緒に、黒松内岳を守り楽しむ活動をしてみませんか？



FOOD & DRINK



天然岩海苔「寒のり」～田中鮮魚店～

日本食には、大変重要な素材である海苔であるが、岩海苔とは波の荒い外海の岩場に生えているアマリなど天然海苔のことである。さて、岩海苔の採取期間は、ふつう12月～2月いっぱいまでの寒い時期だそうだが、寒い時期に採取したものが、1年でもっとも香りがいいからということらしい。採取は、干潮時に海苔の根元をのこして、手先でむしりとり、根元を残しておく、一週間くらいで再生するそうだ。黒松内周辺では、寿都・島牧などでの「寒のり」を採取・加工しているが、黒松内の魚屋さんである田中鮮魚店さんでも若旦那が中心となり手漉きの寒のりを製造・販売している。シンプルにのり弁のようにご飯の上に載せて食べるのもよし、また、サツと火で炙った寒のりを使ったオカカや梅かつおのおにぎりもまたおいしい。添加物を一切使用していないミネラル豊富な手づくり海苔には、厳しい環境で育った寒のりの香りとやさしく深い味わいが凝縮されているのである。

田中鮮魚店にて販売中。5枚入りが2000円（消費税別）

～自然の恵みを楽しむ～ 春の山菜

「四季の始まりは山菜採りにあり」とは言わないまでも山菜採りの季節を待ちわびていた方もいるのではないだろうか。今年も自然の恵みに感謝して、採りすぎない、植生を傷めないなどのマナーを守って山菜を楽しんでいただきたい。以下、皆さんもご存じの春の山菜をいくつかご紹介させていただくが、山菜についてもっと知りたいという方は、北の山菜 WEB 3 号店店長である佐藤悦郎さんの門を是非とも叩いてほしい。



フキノトウ(3月下旬～5月下旬)

キク科フキ属。春の山菜の中で最も早くから収穫できるのがフキノトウ。雪の下からほんの少し顔を覗かしている風景は、春の訪れを感じさせる最もポピュラーな山菜。てんぷらにして塩で食べるのが定番。

コシアブラ(4月上旬～5月下旬)

ウコギ科ウコギ属。山菜の天ぷらといえば、タラの芽とコシアブラと言われるほど人気の高い山菜。白木の芽とも呼ばれ、たらの芽と同じウコギ科の山菜で、上品な香りとかくのある風味が特徴で、香りとコクはタラの芽にも負けない絶品である。

行者ニンニク(4月中旬～5月中旬)

コリ科ネギ属。古来、厳しい修行を行った行者たちが活力源として食べ、にんにくのような独特な香りがすることから、行者にんにくと呼ばれるようになる。収穫できる期間は短いこともあり、ゴールデンウィークには、道内の道の駅などで1番人気の山菜として、天然モノから栽培モノまで広く販売される。ニオイは敬遠されがちだが、焼肉の際に焼いて食べたり、醤油に漬けたり、味噌を付けて食べる方もいる。

山ニンジン(4月中旬～6月上旬)

セリ科シヤク属。山ニンジンとは、全国の積雪地に多く見られ、葉が人参によく似ていることから山ニンジンと呼ばれるようになる。独特の匂いが強くクセがあり、山菜好きにはこの臭さがたまらないと言われるほどの逸品。しゃきしゃきとした歯切れと香りが特徴。

ワラビ(3月下旬～5月下旬)

ワラビ科ワラビ属。おひたしや味噌汁、煮物や炒め物など、わらびの調理方法は豊富。納豆との相性が抜群だという人もいるが、わらびの山菜納豆にアツアツのご飯が合う。また、山菜の混ぜご飯の具としてもわらびは適している。

ヨモギ(3月下旬～5月下旬)

キク科ヨモギ属。よもぎは基本的に繁殖力が旺盛なので、稀に市街地などでも見ることができる。また、薬草としても有名で、茎葉は煎じて飲めば腹痛や下痢などに、お風呂に入れて腰痛や冷え性などに効果があると言われている。香りや風味を生かしたヨモギ団子や草モチが有名だが、新芽の油炒めもおいしいそうだ。

<<黒松内今昔物語>> ～黒松内山道こぼれ話③～

一籠に乗る人担ぐ人、馬に乗る人歩く人 文：北村英芳

ちびちびと晩酌をやりながらテレビの時代劇を観ていたら、脚の長いサラブレッド馬に乗ったイケメン扮するサムライが、さっそうと川を渡るシーンがあった。「あ～あ、俺もあんな風にカッコ良く馬に乗れたらな～」と、憧れ思ったので今回は馬の話。黒松内山道が開削された幕末当時の交通手段は、乗馬が徒歩で馬に乗る人、手綱引人、歩く人」そのもの。ただし、馬に乗って旅が出来るのは幕府の藩士が地方の上級藩士だけ。下っば藩士や出稼ぎ漁師の貧乏人は「籠に乗る人、担ぐ人、そのまた早履作人」で、こわごわどおりのもっぱら歩き旅。明治3年8月、米沢藩士の宮島幹が磯谷郡を調査するため、黒松内山道を通行した際の旅行記「北行日記」に、『黒松内一軒家、利右門二テ昼飯、此所馬継立有り…(略)』と、昼飯後出立、スツ、川ヲ馬ニテ渡ル。水馬腹二及ブ」と、花岡宿（※町内1区、緑橋の下にある「黒松内町発祥の地」碑の所に建っていた）の前を流れる朱太川を馬で渡った事が書かれていて、文面から当時の朱太川の水深は馬の腹までであったことが解かる。そこで、馬の腹の高さとはどれくらいなのか、幕末当時の蝦夷地で飼われていた馬を調べてみた。色んな種類の馬がいたと思いきや、どうもドサンコ馬（北海道和種馬）だけのよう。「北海道和種馬保存会」によると、ドサンコ馬とは江戸時代の12～14世紀頃に、もともと東北にいた南部馬をコシンやコンブなどを陸上で運ぶため、出稼ぎ漁師たちにより道南地方に船で持ち込まれたのが始まりという。冬になると、仕事が無くなった漁師たちは馬を置いて東北に帰ってしまい、残された馬は野生化し、雪の下の子ヤや海岸の海藻を食べてしのぎ、粗食や寒さに耐える北海道独自の馬として発達した。成長した大人のドサンコ馬は、体高が130センチ（肩までの高さ）くらいでポニー馬より少し大きく、競走馬のサラブレッドに比べ胴長短足。たてがみや尾が長いのが特徴で、「北海道和種馬」と呼ばれる在来馬のひとつ。現在、国内では8種の和種馬が約1800頭余り飼われており、ドサンコ馬は1148頭（2012年度末）が血統登録され、和種馬の中で6割強の数を占めてはいるが、他の和種馬と同様に絶滅が心配されるとのこと。

稀少なドサンコ馬を観る機会が少ないせいなのか、ほとんどの人がドサンコ馬と「ばんえい競馬」の馬（※ばん馬）を混同しているという。ドサンコ馬とばん馬の大きな違いは体格なので、小柄で胴長短足なドサンコ馬は典型的な純日本人。一方のばん馬は明治期にペルシヨロ種という西洋馬を輸入し、和種馬と交配し農耕馬として改良した大型馬なので、筋肉隆々のマッチョなハーフ人にとえて言うのではない。しかし、かくいう私も今まで完璧に勘違いしていたので、北海道に生まれ育った道産子として、本家のドサンコ馬さんに対して恥ずかしい…。

さて、米沢藩士の宮島幹が朱太川を渡るのに使った馬は、ドサンコ馬で間違いなさそうなので、体高130センチの胴長短足から考えると腹までの高さは40～50センチ、花岡宿の前を流れる当時の朱太川の水深も同じ40～50センチであったと推測する。



今月、ドサンコ2頭との日本縦断の旅を終えたばかりの北大生・山川晃平さんが話題となった
(2015年3月18日 北海道新聞より)

-小さい歴みつけた- 黒松内駅ランプ小屋

かつては特急「北海」、急行「ニセコ」などが停車していた JR 黒松内駅だが、現在は無人駅となってしまった。1903 年北海道鉄道森駅-熱帯駅の開通に伴い、同線の駅として開業し、単式ホームと島式ホーム混合の 2 面 3 線で、単式ホームに接して駅舎のある地上駅である。そして、なんとこの駅には北海道ではあまり見かけない煉瓦積みの危険品庫のランプ小屋が残っているのだ。年季の入ったこの建造物は「イギリス積み」と呼ばれる煉瓦積みの工法により作られているそうだ。今でこそ函館から長万部、札幌へと向かう室蘭本線に主役の座を譲ってしまったが、「山線」と呼ばれ賑わった黒松内駅の歴史を感じる貴重なスポットである。

○ランプ小屋に関する歴史・こぼれ話などの情報を収集しています。ご存知の方は、ブナ里ツーリズムまで是非ご連絡ください。



BEECH BOYS ～ブナ里少年期紹介～ 作開在住 福田雅樹さん

昭和 56 年 5 月 3 日 黒松内町作開生まれ
ブナの里振興公社に勤務し、自然の家でテキパキした接客をしてくれる作開のラストサムライこと福田雅樹さんに少年時代のお話を聞いた。

Q.子供のころはどんな少年でしたか？

A.今と変わらずチョロチョロしていました。素足で走り回ってへびを踏んだり泣いたり、三輪車で堆肥場に突っ込んだり、薪ストーブに顔から転んだりするような元気な子供でした。

Q.小さい頃の風景で思い出されることは？

A.作開は少し高いところに行く和日本海が見えるのですが、釣りに行ったり、畑の手伝いのときに、海が見ると感動していました。追分のバス停から作開町営牧場へ上がる途中にあった畑から見る朱太川や日本海が好きでした。

Q.少年時代に、将来どんな職業に就こうと考えていました？

A.家は農家で長男でしたが、家を継ぐことに乗り気ではなかったため、将来のことを考えることは避けてきたかもしれません。暗い答えでごめんなさい(笑)。

Q.小さい頃の経験が、今、役だっているといったところはありますか？

A.総合学習「なかよし黒板」という時間があって、ブナ林や地域のことを調べました。作開小学校で学んだ黒松内のいろいろなことは、現在の仕事をするにあたって、大変役立っています。

Q.ブナの里くるまつないで少年時代を送る子どもたちへメッセージを！

A.黒松内の「ここ」が好き！と言えるポイントをたくさん見つけてほしいなと思います。それは町の宝物だと思いますし、それをたくさんの人に伝えてほしいと思います。



編集長から一言。。「フクちゃん」こと福田雅樹さんは、作開に入植した斗南藩 28 戸 135 人の中の 1 人だった福田電八さんの子孫であるということとをまちの歴史研究家・北村氏に聞いたことがある。また、斗南藩の入植者の子孫で作開地区、そして黒松内町内に残っているのは福田家だけとのこと。そうなること、現時点で、フクちゃんは会津藩 > 斗南藩の D N A を持った町の最後？の人物になるのかも知れない。地元を愛し、まちづくりにも尽力を注ぐラストサムライの今後に注目していきたい。

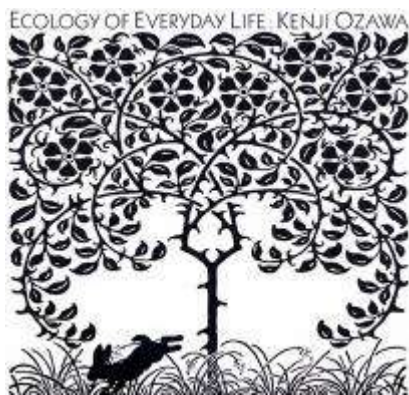
Music&Film

「悼む人」ディノシネマズ室蘭 4月4日より上映



第 140 回直木賞に輝いた天童荒太の同名小説を、堤幸彦監督が高良健吾を主演に迎えて映画化した人間ドラマ。縁もゆかりもない死者を“悼む”ために全国を放浪する青年と、夫を殺した過去をもつヒロインの旅の行方を描き、人が誰しも直面する“死”のありかたを問う。ヒロインの倅世を演じるのは石田ゆり子。(MovieWalker より)

「Ecology of Everyday Life」毎日の環境学
by 小沢健二



ラウンジ、ジャズ、R&B、アンビエントなど様々な音楽を取り入れ日常を詩的に仕上げた小沢健治の環境音楽作品。

2015 イベント情報

April-June

4月4日(土)

<<ヘネシーハンモック試乗体験イベント>>黒松内町添別
～シラカバ樹液で乾杯！倉庫焼肉交流会

ハンモックを活用した体験プログラムの企画開発を進める黒松内フォレストツーリズムでは、白樺の樹液採取&ガレージ焼肉+ヘネシーハンモック(蚊帳付ハンモック)試乗イベントを添別地区ふぁーむいん富田にて開催します。どなたでも気軽にご参加いただけるイベントです。

開催時間：午後 12:00～ 所要時間約 3～4 時間 参加費 1,500 円

※アルコール等飲み物は各自持参込み願います。その他、差し入れ歓迎！

問い合わせは、黒松内フォレストツーリズム本間まで TEL:090-5229-2056

5月3日(日)～17日(日)

<<もりまち桜まつり>>森町青葉ヶ丘公園

今年の桜の開花予想は例年より早めようですが、今年のGWは、黒松内から 1 時間半程度で行ける、隠れた桜の名所「森町」でドライブがてらゆくり花見見物はいかがでしょう。5月10日には、歌手のさくらまやさんやコメディアンのおくらホマをゲストに迎え、歌謡ショーも開催予定です。

お問い合わせ森観光協会まで TEL:01374-7-1286

6月20日(土) ◎開催予定日を記載しています

<<黒松内岳山開き>>黒松内町狩場駐車場(集合場所)

標高 739.8 メートル、天気が良ければ山頂より日本海と太平洋の両海を望むことができる黒松内岳の山開きが、観光協会主催により今年も開催されます。

お問い合わせ・お申込みは、黒松内町観光協会まで TEL:0136-72-3231

ブナ里みてあるきサポート会員募集中！



ブナ北限の里ツーリズムが企画運営する体験イベントに参加していただき、黒松内へお越しになる来訪者の皆さんと一緒に地域イベントを楽しみながら、観光交流の輪を広げていただくサポーターを随時募集します！会費は@1,000 円(お申込みの月より 1 年間有効)となります。会員登録いただいた方には、☆年間 6 回開催予定の体験イベント参加費の割引(約 3 割引) ☆ニュースレターの配信などの特典がございますので、お仲間をお誘い合わせのうえ、是非、お申込みください。

ブナ里北限の里ツーリズム/本間まで 携帯：090-5229-2056